

■第21回院内集会を開催しました

第21回院内集会が11月8日（木）、参議院議員会館地下の103会議室で開かれ、約40名が参加しました。

初めに山田理事長より、10月後半から20日間にわたって行った2回目の米国講演について報告がありました。



続いて家森監事より10月～11月の活動報告、佐々木副理事長より9月30日現在の会計報告（次頁参照）がありました。また岡本行動隊

員より請願署名活動の説明があり、街頭行動用の工夫をこらした小道具が披露されました（写真右下）。

このあと塩谷副理事長より「川内村帰還者支援活動をどのように進めていくか」と題する問題提起があり、とくに活動のための経費負担の問題、行動隊の本来の目的と周辺活動との関係、ボランティアの概念とその在り方について、活発な意見交換が行われました。

最後に平井理事より川内村バスツアーの参加呼びかけがあり（右欄参照）、集会はほぼ定時に終了しました。

なお、この日挨拶を受けた国会議員は牧山ひろえ参院議員、相原しの参院議員、荒井聡衆院議員、渡部いっぷ衆院議員の4氏で、他に6名の議員秘書が来場しました。



牧山議員



相原議員



荒井議員



渡部議員

■山田理事長、米国講演活動を終了し帰国

7～8月の米国講演活動に続いてこの10月に再渡米していた山田理事長が3週間の全日程を無事終了し、11月2日に帰国しました。

今回も前回同様 Fukushima Response Org. の協力をを受け、西海岸と東海岸の12都市を訪問して、大学生を中心に16回におよぶ講演を行いました。

今回の二度にわたる講演活動を通じて、福島原発行動隊のメッセージは米国国内で確実に理解され始めてい

ます。なかでも今回は全米大学教員の間で強い支持を得ることができ、新たにネットワーク構築が進んでいるとのことでした。



今回のアメリカでの講演会はさまざまな会場とスタイルで16回行われ、参加人数は約1,300名にのぼりました。

■参加者募集：川内村をもっと知ろうバスツアー

福島原発行動隊では、川内村観光協会の協力のもと「川内村をもっと知ろう～錦秋の天山へ～」バスツアーを企画しました。

募集要項は次のようになります。行動隊員・賛助会員のみならず多くの方々のご参加をお待ちします。

【日時】12月1日午前7時東京駅出発 午後8時東京駅帰着予定

【参加費】6,000円（バス代、昼食代、保険料含む）

【募集】30名（25名に満たない場合中止とします）

【締切】11月25日（日）必着

お申し込みは以下まで。

- インターネット：http://goo.gl/zSXek
- FAX：03-5980-8536

なお参加費のお振り込み確認後、申し込み確定とします。



天山文庫には、カエルをテーマにした詩を多数残した詩人・草野心平が寄贈した3000冊の蔵書が納められています。



■創意と工夫で請願署名の街頭行動を

公益社団法人 福島原発行動隊では、この10月より福島第一原発の事故収束作業への参画に向けた請願署名活動を行っています。

請願署名用紙は福島原発行動隊のウェブサイトに掲載しています。お手数ですがダウンロードしてご利用下さい。(http://svcf.jp/pdf/121018_shomeiyoushi.pdf)

請願署名活動は本年12月15日が締切です。集まった請願署名は来年1月に政府と国会に提出する予定です。

なお、11月18日(日)には大阪の難波駅周辺、同28日(水)には東京虎ノ門に開催される第7回原子力開発機構(JAEA) 報告会で街頭署名活動を予定しています。

■東電から再度、拒否回答書を受け取りました

11月9日(金)、福島原発行動隊のメンバー7名が東電本社を訪問し、福島第一原発の視察要望に対する東電の回答書を受け取りました。今回の回答書は、10月15日に提出した二回目の視察要望書に対して回答したものです。回答書の内容は、一回目と同様、現場作業への影響等を考慮して「ご要望にお応えするのは難しい」とあらためて視察を拒否するものでした。

9月28日の一回目の東電回答書は、「現地での作業が引き続き困難な状況下で行われていること等に鑑み、現場作業工程への影響等を配慮して(…)一般の方のご視察はお断りしている」と説明していました。

これに対し行動隊は、福島原発行動隊は事故収束を目的に内閣府から公益認定を得た公益社団法人であり、東電の言う「一般の方」とは異なるものであるとして、先月15日に視察要望書を再度提出していました。

今回の回答書は視察受け入れの対象を具体的に明示し、「原子炉の安定化・事故調査・復旧・中長期対策活動に直接携わる政府、行政関係者の業務等に伴う場合にのみ」例外的に視察を受け入れるとしています。



今回の回答書は視察受け入れの対象を具体的に明示し、「原子炉の安定化・事故調査・復旧・中長期対策活動に直接携わる政府、行政関係者の業務等に伴う場合にのみ」例外的に視察を受け入れるとしています。

なお今回の訪問にあたっては、原子力・立地本部福島第一対策担当部長山下和彦氏から公開資料「中長期ロードマップ進捗状況のポイントについて」に基づき福島第一原発の現況に関する詳細な説明がありました。

■地域交流会を静岡と広島で開きます

山田理事長は、10月以降これまでに6ヶ所で隊員・賛助会員の方々と討論してきました。今後さらに以下の予定で交流会を開催します。奮ってご参加ください。

静岡 11月17日(土) 18:00-20:00 (会場：静岡駅ビル「パルシェ」7F 特別会議室)

広島 12月2日(日) 13:00-15:00 (会場：広島オフィスセンター 電話：082-263-8600)

福岡 12月2日(日) 18:00-20:00 (会場：毎日福岡会館4階 中央区天神1-16-1)

参加ご希望の方は、行動隊事務局の篠田までご連絡ください。(電話：03-5980-8535)

■中間会計報告

貸借対照表 (2012年9月30日現在)

科目	金額
I 資産の部	
1. 流動資産	
流動資産合計	4,285,694
2. 固定資産	
固定資産合計	729,167
資産合計	5,014,861
II 負債の部	
1. 流動負債	
流動負債合計	129,646
負債合計	129,646
III 正味財産の部	
1. 指定正味財産	
指定正味財産	0
2. 一般正味財産	4,885,215
正味財産合計	4,885,215
負債及び正味財産合計	5,014,861

■原発ウォッチャー報告 (2012年10月分)

項目	東電発表内容	原発ウォッチャー所見
使用済み燃料貯蔵プール	1~4号機水温はすべて30℃以下、共用プール水温は約30℃	いずれも安定している。 大きな地震・津波などに対する備えが十分であるかは必ずしも明らかではない
原子炉の冷却	反応容器底部・格納容器気相部は約30℃から約45℃で安定	
滞留水保管	年間増加水量 約14.5万トン 既存タンク容量 23.8万トン 既貯水量 21.9万トン 増設工事中(12月完) 7.9万トン 将来増設予定 約30.0万トン	削井・汲上げによる増水量低減と地下水レベル低下、多種除去装置設置(ALPS)による滞留水無害化を準備中。両装置共に技術的にも不確定要素があり注目を要する
海洋汚染	鋼管や板打設準備進行中 港湾内海水汚染未解消	シルトフェンス交換、海水浄化装置運転など実施するも効果不明確
ガレキ伐採木	一時保管槽に収納し、覆土遮蔽する ガレキは54,000m ³ = 14 x 4,000m ³ 伐採木は68,000m ³ = 115 x 600m ³	ガレキは発生継続。貯水槽の設置により伐採木も増加。一時保管槽の以後の計画未定の様子
作業員被ばく	東電社員8月末351人中75mSvを超えた社員243人を、10/11までに配置転換	下請け、孫請け企業の従業員は使い捨てか
	9月の外部被ばく5,513人、最大18.57mSv	重点的に除染をした免震重要棟出入り口前バス停車エリアの線量率は約40μSv/h。4時間/日構内として、1年間の累計被ばく量は約40mSv。(規制：年間50mSv、5年間100mSv)